



主要な農作物の生育情報

平成30年度 第7号

(平成30年10月9日)

福島県農林水産部農業振興課

【水 稲】

農業総合センター調査の成熟期は、各場所の各品種とも平年並から早まりました。本部（郡山）と会津地域研究所（会津坂下）では、登熟日数も平年より短くなりました。

県内の刈取始期（5%）は9月26日（平年：9月27日）となりましたが、刈取作業は周期的な降雨や台風通過の影響により、各品種とも刈取適期より遅れています。

表1 水稲主要品種の成熟期と登熟日数（農業総合センター）

場 所	品 種	田植日 (月日)	成熟期			登熟日数		
			本年 (月日)	平年 (月日)	平年差 (日)	本年 (日)	平年 (日)	平年差 (日)
本 部 (郡 山)	ひとめぼれ	5.15	9. 7	9.22	-15	38	50	-12
	天のつぶ	5.15	9.10	9.24	-14	39	50	-11
	コシヒカリ	5.15	9.22	10. 2	-10	45	51	- 6
会津地域研究所 (会津坂下)	ひとめぼれ	5.21	9. 8	9.11	- 3	41	42	- 1
	天のつぶ	5.21	9.11	9.15	- 4	43	44	- 1
	コシヒカリ	5.21	9.13	9.19	- 6	42	44	- 2
浜地域研究所 (相 馬)	ひとめぼれ	5.10	9.13	9.14	- 1	47	44	+ 3
	天のつぶ	5.10	9.22	9.23	- 1	54	51	+ 3
	コシヒカリ	5.10	9.28	9.28	±0	54	51	+ 3

【野 菜】

1 秋ブロッコリー

県南地方では、播種は7月上旬、定植は7月下旬から開始され、いずれも平年並となりました。定植のピークは8月5～10日頃で8月末にはほぼ終了、8月中旬の降雨により苗の活着は良好でした。

出荷は、平年並の9月中旬から開始され、出荷のピークは平年並の10月中～下旬と予想されます。病害は、軟腐病の発生が増えています。

2 秋冬ニラ

7～8月の高温・乾燥による生育の停滞が見られ、草丈や分けつ数が少ない状態が続きましたが、8月中旬以降の降雨により生育は回復傾向となっています。捨て刈りは10月下旬から、収穫は11月中旬から行われる見込みです。害虫は、アザミウマ類が発生しています。

3 いちご

普通育苗では9月初旬に花芽分化を確認し、定植作業は平年並の9月上旬から順次行われ、多くのほ場で概ね順調に生育しています。収穫は、11月中下旬頃からはじまる見込みです。

4 夏秋トマト

4月下旬定植の作型は、平年並の17～18段花房開花、13～14段花房の収穫となっています。9月中下旬には摘芯作業が行われ、収穫は10月下旬から11月上旬頃まで行われる見込みです。

【果 樹】

1 りんご

(1) 果実肥大（果樹研究所 10月1日現在）

りんご「ふじ」の果実肥大は、暦日比較では縦径が101%、横径が104%と平年並で、満開後日数による比較でも平年並となっています。

(2) 果実成熟

9月27日（満開後158日）の「ふじ」の成熟は、硬度は15.7ポンド、デンプン指数^{*}は 3.1でほぼ平年並、また果皮に含まれるクロロフィル含量、アントシアニン含量とも平年並に推移しています。

※りんごのデンプン指数：指数1～5で評価し、数値が高いほどデンプンの消失が進んでいます。

2 なし

「ラ・フランス」の収穫期と果実品質

「ラ・フランス」の収穫盛期は、9月27日と平年に比べ10日早まりました。収穫時の平均果重は平年よりやや小さく、糖度は平年並でした。

【花 き】

1 ストック

年内出荷の定植は、平年並の8月中旬から9月上旬にかけて順次行われ、病害虫の発生も少なく順調に生育しています。既に出荷が始まっており、本格出荷は10月下旬からとなる見込みです。

2 シクラメン

夏期の高温の影響により、葉の黄化や生育の停滞がみられましたが、8月下旬以降、徐々に回復し、現在では概ね順調に生育しています。5号鉢の早い品種で出荷が始まっていますが、本格的な出荷は平年並の11月上旬以降となる見込みです。

【飼料作物】

1 牧草

3番草は、8月下旬の降雨により生育は回復し、9月上旬から収穫が行われています。8月中旬までの高温の影響もあり雑草の発生も増えています。

2 飼料用とうもろこし

中晩生種は9月中旬から収穫が行われています。8月中旬まで極端に降雨の少なかった地域では、しおれや枯れ、雌穂の形成不良も見られました。

3 W C S用稲

8月中旬から収穫が開始され、現在は専用品種の晩生種等の収穫が行われています。収量は平年並となる見込みです。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>）等を活用し、適切に対応しましょう。

☆ 農作業事故を防止しましょう！

体調管理に十分留意し、農業機械の操作にも注意しましょう。